



スズキ・メソッド三木神戸の夏期合宿（三木山森林公園）は、毎夏の重要行事。ともに活動しながら、生徒たちが大きな刺激を受けていることを実感している



0～3歳児コース西宮教室が行なったステージ体験会に、生演奏でクラスの生徒が出演（2014.12）。大きな拍手をいただいた

こと」という松本先生の教えを大切にすることだった。

「将来的にスズキの先生になるため」に、東京音楽大学に進学。師事した海野義雄先生に曲をどう完成させるかに関して、徹底した部分練習の必要性を説かれた。卒業し、国際スズキ・メソッド音楽院へ。館ゆかり先生から「感情を出さずに、どうして演奏できるの？」と見失っていた音楽表現の再教育を受けた。自分の全部が変わることへの不安を感じたが、「変わることは身構えることではなく、ほんのちよつとの意識で変わる」という館先生の助言で、3年目に音が変わった。

4年間、音楽院でスズキの理念

や指導法を徹底的に学んだ後、大好きな神戸に戻り、松本先生ご夫妻と一緒にスズキ・メソッド三木神戸として活動をしている。3年目を迎えた現在、2歳から小学4年まで22人の生徒を持つ。

「生徒、親、指導者のトライアングルの信頼関係がすべて」と語る。進度の差を気にする母親には「比べる相手は目次、そしてCDの先生」と理解を促す。一方で、自らのレッスンのために、同年代の宮本愛子先生（関西地区ヴァイオリン科指導者）と「弾き合い会」を行ない、音楽院でのレッスンを再現したり、松本先生ご夫妻も含めた室内楽を楽しみながら、指導者生活を満喫。音の研究の再開も直近の課題だ。



3人兄弟の末っ子。中央が西井先生5歳。左が兄。右は双子の姉で、当時はスズキでピアノを習っていた



ライラック公園にあった頃のカザルス像と（右から2人目）。左端は松本先生の奥様、みゆき先生（2001年夏期学校）



音楽院の在生学生として、「ラ・フォリア」を入学式で演奏（右から2人目）。メンバー全員が指導者として活動している



指導曲集第2巻に入ると「読譜」の練習を開始。米国版の「Sight Reading Skills」を使って、次から次にこなしていく



「2巻をやっている時に、1巻の復習もしようね！」と右手の移弦の動き方を確認

# 40 教室めぐり 兵庫

スズキ・メソッド三木神戸（西井）  
tel.078-939-2327  
・神戸市東灘区御影中町 1-16-12  
中御影区民会館  
・三木市本町 1-183-32 緑ヶ丘音楽院

2歳上の兄が通っていた厚木支部の千田成子先生（関西地区ヴァイオリン科指導者）の教室に4歳から通い始めた西井恵子先生。母親が、スズキの考えの同級生から聞いた、スズキの考え方に共鳴したことがきっかけだった。「叱られたり、比べられたり、母はスズキとは逆の育てられ方でピアノを学んだそうです」。レッスンでは、妹が兄を追い抜かさないよう、お願いをしたり、家ではいろいろなCDをかけっぱなしにするなど、母親自身が気配りをしながらも、スズキで学ぶことを楽しんでいました。「千田先生みたいな先生になりたい」と恵子さんが漠然と将来を思い描いたのもこの頃。「千田先生が大好きで、憧れを抱いていました。それにヴァイオリンの音が好きで、音を聴いて

いれば幸せ」という子どもも多かった。父親の転勤で小学3年で神戸に引越すと千田先生に紹介された松本尚三先生（関西地区ヴァイオリン科指導者のクラスへ。「いつもにこやかにですが、音程がとにかく厳しかった」松本先生のグループレッスンは、教育熱心な土地柄を反映して、子どもたちの動きも、びたつと揃っていた。1年もした頃には、先生のクラスにも慣れ、「音が良くなった」と家族からも言葉かけられ、「いい音」「いい音程」を常に意識するように変化した。

その後、音楽コースのある高校への進学を先生から進められたが、両親は、普通高校を希望。「いろいろな先生に師事するのではなく、今は松本先生一人が一番いい選択」と指摘。当時の西井先生の、自分のやりたいことを全部表現しようとする荒削りな演奏に必要なのは、「ゆっくりな練習を繰り返す、その上ですべての感情を出すのはいい



支部の夏期合宿。お気に入りの1枚

## きちゃんと音に向き合う姿勢を大切に ヴァイオリン科 西井恵子先生クラス

「親の転勤で小学3年で神戸に引越すと千田先生に紹介された松本尚三先生（関西地区ヴァイオリン科指導者のクラスへ。「いつもにこやかにですが、音程がとにかく厳しかった」松本先生のグループレッスンは、教育熱心な土地柄を反映して、子どもたちの動きも、びたつと揃っていた。1年もした頃には、先生のクラスにも慣れ、「音が良くなった」と家族からも言葉かけられ、「いい音」「いい音程」を常に意識するように変化した。

楽しみで、スズキの指導者への道を決意するきっかけにも。また、「この仕事をやってよかったこと」という小学校の宿題で、松本先生を取材した時は、「生徒が立派に育つ姿を見ることが一番」と応じていただいた。松本先生にとっても「指導者人生で嬉しかった出来事の一つ」になったという。



国際スズキ・メソッド音楽院を卒業して3年目の西井恵子先生。ヴァイオリンの音が大好きで、憧れの先生のようになりたくないと願った時代を振り返りながら親と子と指導者の信頼関係を大切に、自らのレッスンにも励む毎日を送っておられる。